

三重大学医学部附属病院

整形外科専門研修プログラム

目次

1. 整形外科専門研修の理念と使命
2. 三重大学整形外科専門研修プログラムの目標と特徴
3. 三重大学整形外科専門研修後の成果
4. 研修方法
 - 4.1 基本方針
 - 4.2 研修計画
 - ①専門知識の習得計画
 - ②専門技能の習得計画
 - ③経験目標（経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等）
 - ④プログラム全体と連携施設におけるカンファレンス
 - ⑤リサーチマインドの養成計画
 - ⑥学術活動に関する研修計画（専攻医 1 人あたりの学会発表、論文等）
 - ⑦基本的診療能力に関する研修計画（医療倫理、医療安全、院内感染対策等）
 - ⑧地域医療に関する研修計画
 - ⑨サブスペシャリティ領域との連続性について
 - 4.3 研修およびプログラムの評価計画
 - ①専攻医の評価時期と方法
 - ②専門研修プログラム管理委員会の運用計画
 - ③プログラムとしての FD (Faculty Development) の計画
 - ④専門研修プログラムの改善方法
 - 4.4 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）
 - 4.5 整形外科研修の休止、中断、プログラムの移動、プログラム外研修の条件
 - 4.6 修了要件
5. 研修スケジュール、研修ローテーション、専門研修施設、指導医
6. 専門研修プログラムを支える体制
7. 募集人数と応募方法、病院見学の申し込みについて

1. 整形外科専門研修の理念と使命

整形外科専門医制度は、整形外科専門医研修プログラムに基づき、医師として必要な臨床能力および運動器疾患全般に関して、基本的・応用的実践能力を備えた医師を育成し、患者のみならず国民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献することを理念とします。

整形外科専門医は、生活習慣、変性疾患、災害、スポーツ活動によって発生する運動器疾患と障害の発生予防と診療に関する能力を備え、最新の知識・テクニック・スキルを習得します。標準的かつ包括的な整形外科医療と最新の医療を提供して国民の健康保持と福祉に貢献し、運動器疾患全般に関して、早期診断、保存的および手術的治療ならびにリハビリテーション治療などを実行できる能力を養い、運動器疾患に関する良質かつ安全で心のこもった医療を提供し、また学問的発展に貢献することを使命とします。

2. 三重大学整形外科専門研修プログラムの目標と特徴

三重大学整形外科専門研修プログラムは、以下の4点の修得を重要視しています。

1) 豊富な知識

整形外科医師としてあらゆる運動器疾患に関する知識を系統的に理解し、さらに日々進歩する新しい知見を時代に先駆けて吸収し続けます。

2) 探究心

あらゆる運動器疾患に対する臨床的な疑問点を見出して解明しようとする姿勢を持ち、その解答を科学的に導き出し、論理的に正しくまとめる能力を身につけます。

3) 倫理観

豊かな人間性と高い倫理観の元に、整形外科医師として心のこもった医療を患者に様に提供し、国民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献します。

4) 実践的な技術

豊富な症例数に基づいた研修により、運動器全般に関して的確な診断能力を身につけ、適切な保存療法、リハビリテーションを実践します。そして基本手技から最先端技術までを網羅した手術治療を実践することで、運動器疾患に関する良質かつ安全な医療を提供します。

三重大学整形外科専門研修プログラムにおいては指導医が専攻医の教育・指導にあたりますが、専攻医自身も主体的に学ぶ姿勢をもつことが大切です。整形外科専門医は自己研鑽し自己の技量を高めると共に、積極的に臨床研究等に関わり整形外科医療の向上に貢献することが必要となります。チーム医療の一員として行動し、患者や医

療関係者とのコミュニケーション能力を磨くことによって周囲から信頼されることも重要です。本研修プログラムでの研修後に皆さんは運動器疾患に関する良質かつ安全で心のこもった医療を提供するとともに、将来の医療の発展に貢献できる整形外科専門医となることが期待されます。

整形外科学は、運動器の機能と形態の維持・再建をめざす臨床医学であり、脊椎、上肢、下肢などの広範な診療領域を扱います。超高齢社会を迎えた我が国においては、整形外科への期待はますます大きくなっています。現在、三重大学整形外科には、股関節、膝関節、脊椎、スポーツ医学・足の外科、上肢・手外科、骨軟部腫瘍、小児整形、リウマチ・骨代謝、リハビリテーションなどの診療・研究グループがあります。連携施設は、スポーツ医学、手外科、脊椎外科、関節外科、救急医療、小児整形、リハビリテーションなどそれぞれに特色をもった約 29 におよぶ病院、施設があり、機能的なローテーションにより、プライマリケアから最先端の臨床・研究までを学ぶことができます。

三重大学整形外科は、創設から 70 年が経過し、整形外科全領域にわたる研究・教育・診療体制が整備されています。三重大学整形外科は、日本の最先端科学技術のノウハウを有する研究機関と多数共同研究をしており、それらの施設と連携して様々な分野での臨床・研究を進めています。三重大学整形外科は、専攻医の皆様に素晴らしい研究環境を提供し、個々の能力を最大限に引き出す研修を目指します。

3. 三重大学整形外科専門研修後の成果

三重大学整形外科研修プログラムを修了した専攻医は、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技能を修得できるような幅広い基本的な臨床能力（知識・技能・態度）が身についた整形外科専門医となることができます。また、同時に専攻医は研修期間中に以下の診療能力（コアコンピテンシー）も習得できます。

- 1) 患者への接し方に配慮し、患者や医療関係者とのコミュニケーション能力を磨く
- 2) 自立して、誠実に、自律的に医師としての責務を果たし、周囲から信頼される
- 3) 診療記録の適確な記載ができる
- 4) 医の倫理、医療安全等に配慮し、患者中心の医療を実践できる
- 5) 臨床から学ぶことを通して基礎医学・臨床医学の知識や技術を修得する
- 6) チーム医療の一員として行動する
- 7) 後輩医師に教育・指導を行う

4. 研修方法

参照資料

整形外科専門研修プログラム整備基準及び付属資料（日本整形外科学会 HP）

<http://www.joa.or.jp/jp/edu/index.html>

4.1 基本方針

整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って、三重大学医学部附属病院（基幹施設）および連携施設群において研修を行います。専門知識習得の年時毎の到達目標と専門技能修得の年時毎の到達目標は、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 1「専門知識習得の年次毎の到達目標」、資料 2「専門技能習得の年次毎の到達目標」を参照して下さい。

研修実績の記録と評価には、日本整形外科学会整形外科専門医管理システムを用います。専攻医は、各研修領域終了時および研修施設移動時に日本整形外科学会が作成したカリキュラム成績表の自己評価欄に行動目標毎の自己評価を行います。また指導医評価表で指導体制、研修環境に対する評価を行います。指導医は、専攻医が行動目標の自己評価を終えた後にカリキュラム成績表の指導医評価欄に専攻医の行動目標の達成度を評価します。また、指導医は研究発表、カンファレンスの際に専攻医に対して教育的な建設的フィードバックを行います。

研修実績と評価をもとに、専門研修最終年度の3月に研修プログラム管理委員会において、専門研修修了判定を行います。判定基準は【4.6 修了要件】に定めるとおりです。このプログラムおよび専門研修プログラム管理委員会は、サイトビジット（施設実地調査）を含む第3者の評価・指導を受けます。また、その際に研修プログラム統括責任者、研修連携施設指導管理責任者、指導医ならびに専攻医は真摯に対応いたします。

4.2 研修計画

整形外科の研修で経験すべき疾患・病態は、骨、軟骨、筋、靭帯、神経などの運動器官を形成するすべての組織の疾病・外傷・加齢変性です。また新生児、小児、学童から成人、高齢者まで全ての年齢層が対象となり、その内容は多様です。この多様な疾患に対する専門技能を研修するために、整形外科専門研修は1ヵ月の研修を1単位とする単位制をとり、全カリキュラムを脊椎、上肢・手、下肢、外傷、リウマチ、リハビリテーション、スポーツ、地域医療、小児、腫瘍の10の研修領域に分割し、専攻医が基幹病院および連携病院をローテーションすることで、それぞれの領域で定められた修得単位数以上を修得し、4年間で45単位を修得する修練プロセスで研修します。

①専門知識の習得計画

本研修プログラムでは、専門知識を整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って研修し、知識習得状況を6ヵ月毎

に評価します（自己評価および指導医評価）。専門研修プログラム管理委員会による専攻医面接を年1回行い、評価したデータ（整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 資料10 整形外科専攻医評価表）をまとめた評価表を参照し、知識習得に関する目標設定・取得単位調整・指導を行います。

②専門技能の習得計画

本研修プログラムでは、専門技能を整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って研修し、技能習得状況を6ヵ月毎に評価します（自己評価および指導医評価）。専門研修プログラム管理委員会による専攻医面接を年1回行い、評価したデータ（整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 資料10 整形外科専攻医評価表）を参照し、技能習得に関する目標設定・取得単位調整・指導を行います。

③経験目標（経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等）

経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等は、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」に明示された症例数以上を三重大学医学部附属病院及び連携施設で偏りがないように経験することができます。

④プログラム全体と連携施設によるカンファレンス

各研修施設の研修委員会の計画の下、症例検討はすべての施設で行います。専攻医の知識・技能習得のためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が企画・開催します。

⑤リサーチマインドの養成計画

すべての専攻医が自らの症例を用いて研究した成果を中部日本整形外科・災害外科学会や東海集談会などの学会で年1回は発表します。研究指導は各施設の指導医が行います。

⑥学術活動に関する研修計画（専攻医 1人あたりの学会発表、論文等）

専攻医が学会発表年1回以上、また論文執筆を年1本以上行えるように指導します。専門研修プログラム管理委員会は全専攻医の学会発表数および論文執筆数を年1回集計します。

⑦基本的診療能力に関する研修計画（医療倫理、医療安全、院内感染対策等）

整形外科専門医としての臨床能力（コンピテンシー）には、専門的知識・技能だけでなく、医師としての基本的診療能力（コアコンピテンシー）が重要であることから、どの領域から研修を開始しても基本的診療能力を身につけさせることを重視しながら指導し、さらに専攻医評価表を用いてフィードバックをすることによって基本的診療能力を早期に獲得させます。

三重大学医学部附属病院および各研修施設の医療倫理・医療安全講習会に参加し、その参加状況を年 1 回専門研修プログラム管理委員会に報告します。

⑧地域医療に関する研修計画

本プログラムの研修施設群は三重県指定医師不足地域中小病院および医師不足地域中核病院を含みます。すべての専攻医は三重県指定医師不足地域中小病院および医師不足地域中核病院に 3 ヶ月以上勤務します。

⑨サブスペシャリティ領域との連続性について

整形外科専門医のサブスペシャリティ領域として、日本脊椎脊髄病学会指導医、日本リウマチ学会専門医、日本手外科学会専門医があります。本プログラムの三重大学医学部附属病院および連携施設にはこれらサブスペシャリティ領域の研修施設が複数施設ずつ含まれています。整形外科専門研修期間からこれらのサブスペシャリティ領域の研修を行うことができ、専攻医のサブスペシャリティ領域の専門研修や学術活動を支援します。

4.3 研修およびプログラムの評価計画

①専攻医の評価時期と方法

専攻医および指導医は研修記録による研修実績評価を 6 ヶ月に 1 回行い（9 月末および 3 月末）、専門研修プログラム管理委員会に提出します。

他職種も含めた三重大学医学部附属病院および各研修施設での研修評価（態度も含めた総評）を各施設での研修終了時に行います。

専攻医は研修プログラムの取得単位、学会発表・論文執筆数、教育研修講演受講状況を年度末に専門研修プログラム管理委員会に提出し、専門研修プログラム管理委員会で評価します。

上記の総評を専門研修プログラム管理委員会で年 1 回年度末に評価します。

②専門研修プログラム管理委員会の運営計画

専門研修プログラム管理委員会は専門研修プログラム統括責任者を委員長とし、各連携施設の専門研修指導責任者を委員とします。

3 月に専攻医 4 年次の修了判定委員会を行います。

必要時に臨時委員会を開催します。

③プログラムとしての FD (Faculty Development)の計画

指導医は整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 12「整形外科指導医マニュアル」に従って専攻医を指導します。

厚生労働省および日本整形外科学会主催の指導医講習会へ参加し、その参加状況を年1回専門研修プログラム管理委員会に報告します。

④専門研修プログラムの改善方法

専門研修プログラム管理委員会で年1回検討し、必要に応じてプログラム改定を行います。

4.4 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

専門研修プログラム管理委員会は、専攻医に対するアンケートと面接で各施設の就業環境を調査します。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、専門研修指導責任者に文書で通達・指導します。

4.5 整形外科研修の休止、中断、プログラムの移動、プログラム外研修の条件

傷病、妊娠、出産、育児、その他やむを得ない理由がある場合の休止期間は合計6ヵ月間以内とします。限度を超えたときは、原則として少なくとも不足期間分を追加履修することとなります。疾病の場合は診断書の、妊娠・出産の場合はそれを証明するものの添付が必要です。留学、診療実績のない大学院の期間は研修期間に組み入れることはできません。また研修の休止期間が6ヵ月を超えた場合には、専門医取得のための専門医試験受験が1年間遅れる場合もあります。専門研修プログラムの移動に際しては、移動前・後のプログラム統括責任者及び整形外科領域の研修委員会の同意が必要です。

4.6 修了要件

- 1) 各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること
- 2) 行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること
- 3) 臨床医として十分な適性が備わっていること
- 4) 研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する領域別講習会を受講し、所定の手続により30単位を修得していること
- 5) 1回以上の学会発表、また筆頭著者として1編以上の論文があること

以上1)～5)の修了認定基準をもとに、専攻研修4年目の3月に専門研修プログラム管理委員会において修了判定を行います。

5. 研修スケジュール、研修ローテーション、専門研修施設、指導医

三重大学医学部附属病院では整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 3 「整形外科専門研修カリキュラム」にあるすべての分野を研修することができます。最新の設備と豊富な症例を経験しながら、専門分野ごとの症例検討などより専門的な知識・技能を指導します。

【三重大学週間予定表】

| 指導医数 | 週間スケジュール | | | | |
|------|------------------------|------------------------|----------------|------------------------|----------------|
| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
| 8 | AM 手術 | AM 外来 | AM 外来 | AM 手術 | AM 外来 |
| | PM 手術 手術症例術後 検討会 | PM 外来 手術症例術前 検討会 | PM 外来・ 病棟業務 | PM 手術 手術症例術後 検討会 | PM 外来・ 病棟業務 |

本プログラムの連携施設は 29 施設（桑名市総合医療センター、三重北医療センター 菰野厚生病院、主体会病院、四日市羽津医療センター、県立総合医療センター、富田浜病院、鈴鹿回生病院、鈴鹿中央総合病院、村瀬病院、伊賀市立上野総合市民病院、名張市立病院、三重病院、三重県立子ども心身発達医療センター、永井病院、三重中央医療センター、武内病院、松阪市民病院、済生会松阪総合病院、松阪中央総合病院、伊勢赤十字病院、市立伊勢総合病院、大台厚生病院、県立志摩病院、尾鷲総合病院、紀南病院、聖隷浜松病院、湘南藤沢徳洲会病院、静岡徳洲会病院、山形徳洲会病院）です。それぞれの施設の指導医と指導分野を下表に示します。

整形外科診療の現場における研修方法の要点については、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 13 「整形外科専攻医研修マニュアル」を参照して下さい。

【専門研修施設群 専門研修指導医 一覧】

| 施設名 | 指導医名 | 指導分野 1 | 指導分野 2 | 指導分野 3 |
|-------------|-------|--------|--------|--------|
| 三重大学医学部附属病院 | 長谷川正裕 | 下肢 | リウマチ | リハビリ |
| 三重大学医学部附属病院 | 明田浩司 | 脊椎 | 外傷 | 小児 |
| 三重大学医学部附属病院 | 西村明展 | 下肢 | リハビリ | スポーツ |
| 三重大学医学部附属病院 | 中村知樹 | 腫瘍 | 外傷 | 地域医療 |

| | | | | |
|-----------------|--------|------|------|------|
| 三重大学医学部附属病院 | 内藤陽平 | 下肢 | 小児 | 地域医療 |
| 三重大学医学部附属病院 | 竹上徳彦 | 脊椎 | 小児 | スポーツ |
| 三重大学医学部附属病院 | 伊東直也 | 上肢・手 | スポーツ | リウマチ |
| 三重大学医学部附属病院 | 刀根慎恵 | 下肢 | リハビリ | 小児 |
| 三重大学医学部附属病院 | 浅野貴裕 | 上肢・手 | リウマチ | 外傷 |
| 三重大学医学部附属病院 | 萩 智仁 | 腫瘍 | 地域医療 | 脊椎 |
| 三重大学医学部附属病院 | 宮村 岳 | 外傷 | リハビリ | 上肢・手 |
| 桑名市総合医療センター | 中瀬古健 | 上肢・手 | 下肢 | 外傷 |
| 桑名市総合医療センター | 松田 理 | 外傷 | 地域医療 | リハビリ |
| 桑名市総合医療センター | 岡村直樹 | 外傷 | リウマチ | スポーツ |
| 三重北医療センター菰野厚生病院 | 山田浩之 | 外傷 | リハビリ | 下肢 |
| 三重北医療センター菰野厚生病院 | 加藤弘明 | 外傷 | リハビリ | 地域医療 |
| 主体会病院 | 川村豪伸 | 地域医療 | リハビリ | スポーツ |
| 主体会病院 | 佐野友彦 | 地域医療 | 下肢 | 外傷 |
| 四日市羽津医療センター | 小川明人 | 外傷 | 下肢 | 上肢 |
| 四日市羽津医療センター | 片岡武史 | 上肢・手 | 外傷 | スポーツ |
| 県立総合医療センター | 北尾 淳 | 下肢 | リウマチ | スポーツ |
| 県立総合医療センター | 奥山典孝 | リハビリ | 外傷 | 腫瘍 |
| 県立総合医療センター | 柿本拓也 | 上肢・手 | 小児 | 地域医療 |
| 県立総合医療センター | 服部徹也 | 脊椎 | 下肢 | 外傷 |
| 富田浜病院 | 河野稔文 | 脊椎 | 下肢 | 地域医療 |
| 富田浜病院 | 村田 耕一郎 | 外傷 | 脊椎 | リハビリ |
| 鈴鹿回生病院 | 加藤 公 | 下肢 | スポーツ | リハビリ |
| 鈴鹿回生病院 | 森田哲正 | 上肢・手 | リウマチ | 小児 |

| | | | | |
|-------------------|-------|------|------|------|
| 鈴鹿回生病院 | 福田亜紀 | 上肢・手 | スポーツ | リハビリ |
| 鈴鹿回生病院 | 中空繁登 | 下肢 | 外傷 | 腫瘍 |
| 鈴鹿回生病院 | 植村 剛 | 上肢・手 | スポーツ | 地域医療 |
| 鈴鹿回生病院 | 大井 徹 | 下肢 | 外傷 | スポーツ |
| 鈴鹿中央総合病院 | 稲田 均 | 下肢 | リハビリ | リウマチ |
| 鈴鹿中央総合病院 | 若林弘樹 | 下肢 | リウマチ | リハビリ |
| 鈴鹿中央総合病院 | 國分直樹 | 上肢・手 | 外傷 | 小児 |
| 鈴鹿中央総合病院 | 横山 弘和 | スポーツ | 腫瘍 | 地域医療 |
| 村瀬病院 | 近藤哲士 | 脊椎 | リハビリ | 地域医療 |
| 村瀬病院 | 宮崎晋一 | 下肢 | 外傷 | リウマチ |
| 村瀬病院 | 今西隆夫 | 脊椎 | 下肢 | 外傷 |
| 伊賀市立上野総合市民病院 | 佐藤昌良 | 脊椎 | リハビリ | 地域医療 |
| 伊賀市立上野総合市民病院 | 海野宏至 | 上肢・手 | 下肢 | スポーツ |
| 伊賀市立上野総合市民病院 | 瀧川慎也 | 脊椎 | 外傷 | 地域医療 |
| 名張市立病院 | 園田 潤 | 外傷 | リハビリ | 腫瘍 |
| 名張市立病院 | 森本剛司 | 脊椎 | 外傷 | 下肢 |
| 三重病院 | 西山正紀 | 下肢 | リハビリ | 小児 |
| 三重病院 | 多喜祥子 | 上肢・手 | 小児 | 下肢 |
| 三重県立子ども心身発達医療センター | 西村淑子 | リハビリ | 小児 | 脊椎 |
| 永井病院 | 吉川智朗 | 下肢 | 外傷 | リウマチ |
| 三重中央医療センター | 田中 雅 | リウマチ | スポーツ | リハビリ |
| 三重中央医療センター | 山口敏郎 | 下肢 | 上肢・手 | 外傷 |
| 武内病院 | 高北久嗣 | 下肢 | リウマチ | 外傷 |
| 松阪市民病院 | 池村重人 | 下肢 | 外傷 | リハビリ |
| 松阪市民病院 | 山田淳一 | 脊椎 | 上肢・手 | 地域医療 |

| | | | | |
|-----------|-------|------|------|------|
| 済生会松阪総合病院 | 森本政司 | 上肢・手 | 外傷 | 小児 |
| 済生会松阪総合病院 | 竹上謙次 | 脊椎 | リハビリ | |
| 済生会松阪総合病院 | 友田良太 | 下肢 | リウマチ | スポーツ |
| 済生会松阪総合病院 | 川喜田英司 | 脊椎 | 外傷 | 腫瘍 |
| 済生会松阪総合病院 | 長尾信人 | 下肢 | 外傷 | リウマチ |
| 松阪中央総合病院 | 浅沼邦洋 | 上肢・手 | 外傷 | 腫瘍 |
| 松阪中央総合病院 | 藤原達彦 | 脊椎 | リハビリ | 地域医療 |
| 松阪中央総合病院 | 奥野一真 | 下肢 | 外傷 | 小児 |
| 伊勢赤十字病院 | 山川 徹 | 外傷 | リウマチ | 小児 |
| 伊勢赤十字病院 | 森川丞二 | 下肢 | 外傷 | スポーツ |
| 伊勢赤十字病院 | 榊原紀彦 | 脊椎 | 外傷 | リハビリ |
| 伊勢赤十字病院 | 西本和人 | 上肢・手 | 下肢 | スポーツ |
| 伊勢赤十字病院 | 奥野 一真 | 腫瘍 | 小児 | 地域医療 |
| 市立伊勢総合病院 | 原 隆久 | 脊椎 | 上肢・手 | リウマチ |
| 市立伊勢総合病院 | 里中東彦 | 地域医療 | スポーツ | 小児 |
| 市立伊勢総合病院 | 吉田格之進 | 下肢 | 外傷 | 腫瘍 |
| 大台厚生病院 | 佐藤憲史 | リハビリ | 外傷 | 地域医療 |
| 大台厚生病院 | 塚本 正 | 上肢・手 | 外傷 | 地域医療 |
| 県立志摩病院 | 田島正稔 | 外傷 | 地域医療 | リハビリ |
| 尾鷲総合病院 | 長谷川正裕 | 地域医療 | | |
| 紀南病院 | 加藤 祥 | 下肢 | 外傷 | リハビリ |

| | | | | |
|-----------|-------|------|------|------|
| 聖隷浜松病院 | 佐々木寛二 | 脊椎 | 外傷 | 腫瘍 |
| 聖隷浜松病院 | 森諭 史 | 下肢 | リウマチ | 小児 |
| 聖隷浜松病院 | 井上善也 | 腫瘍 | | |
| 聖隷浜松病院 | 船越雄誠 | 下肢 | スポーツ | リハビリ |
| 聖隷浜松病院 | 滝 正徳 | 下肢 | スポーツ | 外傷 |
| 聖隷浜松病院 | 阿部真行 | 上肢・手 | 外傷 | スポーツ |
| 聖隷浜松病院 | 大井宏之 | 上肢・手 | リウマチ | 腫瘍 |
| 聖隷浜松病院 | 石井 啓介 | 外傷 | 脊椎 | 上肢・手 |
| 聖隷浜松病院 | 鈴木 浩介 | 外傷 | 上肢・手 | 下肢 |
| 聖隷浜松病院 | 野坂 潮 | 外傷 | 脊椎 | 小児 |
| 聖隷浜松病院 | 林 卓馬 | 外傷 | リハビリ | 腫瘍 |
| 聖隷浜松病院 | 水野哲太郎 | 脊椎 | 外傷 | 地域医療 |
| 湘南藤沢徳洲会病院 | 武石浩之 | 上肢・手 | 外傷 | 下肢 |
| 湘南藤沢徳洲会病院 | 江原宗平 | 脊椎 | | |
| 静岡徳洲会病院 | 佐野晃久 | 上肢・手 | 外傷 | 下肢 |
| 静岡徳洲会病院 | 堀川 明 | 上肢・手 | 外傷 | 下肢 |
| 山形徳洲会病院 | 大沼 寧 | 下肢 | スポーツ | リハビリ |
| 山形徳洲会病院 | 富樫 栄太 | 下肢 | スポーツ | 外傷 |

6. 専門研修プログラムを支える体制

①専門研修プログラムの管理運営体制

基幹施設である三重大学医学部附属病院においては、指導管理責任者（プログラム統括責任者を兼務）および指導医の協力により、また専門研修連携施設においては指導管理責任者および指導医の協力により専攻医の評価ができる体制を整備します。専門研修プログラムの管理には日本整形外科学会が作成した指導医評価表や専攻医評価表などを用いた双方向の評価システムにより、互いにフィードバックすることによって研修プログラムの改善を行います。

上記目的達成のために三重大学医学部附属病院に専門研修プログラムと専攻医を統括的に管理する整形外科専門研修プログラム管理委員会を置きます。

本研修プログラム群には、1名の整形外科専門研修プログラム統括責任者を置きます。

②基幹施設の役割

基幹施設である三重大学医学部附属病院は専門研修プログラムを管理し、プログラムに参加する専攻医および連携施設を統括します。

三重大学医学部附属病院は研修環境を整備し、専攻医が整形外科の幅広い研修領域を研修でき、研修修了時に修得すべき領域の単位をすべて修得できるような専門研修施設群を形成し、専門研修プログラム管理委員会を中心として、専攻医と連携施設を統括し、専門研修プログラム全体の管理を行います。

③専門研修指導医

指導医は専門研修認定施設に勤務し、整形外科専門医の資格を1回以上更新し、なおかつ日本整形外科学会が開催する指導医講習会を5年に1回以上受講している整形外科専門医であり、本研修プログラムの指導医は上記の基準を満たした専門医です。整形外科診療の現場における指導方法の要点については、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 12「整形外科指導医マニュアル」に基づいて行います。

④プログラム管理委員会の役割と権限

1) 整形外科研修プログラム管理委員会は、研修プログラムの作成や研修プログラム相互間の調整、専攻医の管理及び専攻医の採用・中断・修了の際の評価等専門医研修の実施の統括管理を行います。

2) 整形外科研修プログラム管理委員会は研修の評価及び認定において、必要に応じて指導医から各専攻医の研修進捗状況について情報提供を受けることにより、各専攻医の研修進捗状況を把握、評価し、修了基準に不足している部分についての研修が行

えるよう、整形外科専門研修プログラム統括責任者や指導医に指導・助言する等、有効な研修が行われるよう配慮します。

3) 研修プログラム管理委員会は、専攻医が研修を継続することが困難であると認める場合には、当該専攻医がそれまでに受けた専門医研修に係る当該専攻医の評価を行い、管理者に対し、当該専攻医の専門医研修を中断することを勧告することができます。

4) 研修プログラム管理委員会は、専攻医の研修期間の終了に際し、専門医研修に関する当該専攻医の評価を行い、管理者に対し当該専攻医の評価を報告します。

5) 整形外科専門研修プログラム管理委員会の責任者である専門研修プログラム統括責任者が、整形外科専門研修プログラム管理委員会における評価に基づいて、専攻医の最終的な研修終了判定を行います。

6) 三重大学医学部附属病院は連携施設とともに研修施設群を形成します。三重大学医学部附属病院に置かれたプログラム統括責任者は、総括的評価を行い、修了判定を行います。また、プログラムの改善を行います。

⑤プログラム統括責任者の役割と権限

プログラム統括責任者は、整形外科領域における十分な診療経験と教育指導能力を有し、以下の整形外科診療および整形外科研究に従事した期間、業績、研究実績を満たした整形外科医とされており、本研修プログラム統括責任者はこの基準を満たしています。

1) 整形外科専門研修指導医の基準を満たす整形外科専門医 2) 医学博士号またはピアレビューを受けた英語による筆頭原著論文を3編有する

プログラム統括責任者の役割・権限は以下の通りとします。

1) 専門研修基幹施設である三重大学医学部附属病院における研修プログラム管理委員会の責任者であり、プログラムの作成、運営、管理を担う。

2) 専門研修プログラムの管理・遂行や専攻医の採用・修了判定につき最終責任を負う。

⑥労働環境、労働安全、勤務条件

三重大学医学部附属病院や各研修連携施設の病院規定によりますが、労働環境、労働安全、勤務条件等へ以下に示す配慮をします。

1) 研修施設の責任者は専攻医のために適切な労働環境の整備に努めます

2) 研修施設の責任者は専攻医の心身の健康維持に配慮します

3) 過剰な時間外勤務を命じないようにします

4) 施設の給与体系を明示します

7. 募集人数と応募方法、病院見学の申し込みについて

①専攻医受入数

各年次 10 名 合計 40 名

各施設の専攻医最大受入可能数は指導医数及び各施設の新患者数及び手術数および専攻医受入実績で定められている受入基準から下記のようになり、その各施設の受入可能専攻医数を基に群全体の受入数を各年次 10 名、合計 40 名と設定しました。

| | 新患者数 | 手術数 | 指導医数 | 専攻医最大受入可能数 |
|-------------------|------|------|------|------------|
| 三重大学医学部附属病院 | 924 | 713 | 11 | 10 |
| 桑名市総合医療センター | 438 | 614 | 3 | 3 |
| 三重北医療センター菰野厚生病院 | 1123 | 118 | 2 | 1 |
| 主体会病院 | 2693 | 235 | 2 | 1 |
| 四日市羽津医療センター | 832 | 297 | 1 | 2 |
| 三重県立総合医療センター | 931 | 985 | 4 | 2 |
| 富田浜病院 | 3021 | 718 | 4 | 2 |
| 鈴鹿回生病院 | 3351 | 1679 | 6 | 5 |
| 鈴鹿中央総合病院 | 1004 | 1202 | 3 | 2 |
| 村瀬病院 | 2846 | 338 | 4 | 4 |
| 伊賀市立上野総合市民病院 | 560 | 539 | 2 | 2 |
| 名張市立病院 | 1438 | 382 | 2 | 2 |
| 国立三重病院 | 405 | 108 | 2 | 2 |
| 三重県立子ども心身発達医療センター | 125 | 0 | 1 | 1 |
| 永井病院 | 1848 | 961 | 1 | 1 |
| 三重中央医療センター | 600 | 701 | 3 | 3 |
| 武内病院 | 1258 | 205 | 1 | 1 |
| 松阪市民病院 | 506 | 519 | 1 | 1 |
| 済生会松阪総合病院 | 1496 | 840 | 4 | 4 |
| 松阪中央総合病院 | 891 | 791 | 3 | 2 |
| 伊勢赤十字病院 | 1534 | 1318 | 4 | 4 |

| | | | | |
|-----------|------|------|----|---|
| 市立伊勢総合病院 | 2698 | 1728 | 3 | 3 |
| 大台厚生病院 | 905 | 163 | 1 | 1 |
| 県立志摩病院 | 3103 | 367 | 1 | 1 |
| 尾鷲総合病院 | 849 | 430 | 1 | 1 |
| 紀南病院 | 3000 | 328 | 1 | 1 |
| 聖隷浜松病院 | 1565 | 1048 | 14 | 9 |
| 湘南藤沢徳洲会病院 | 2836 | 2596 | 2 | 2 |
| 静岡徳洲会病院 | 198 | 233 | 2 | 1 |
| 山形徳洲会病院 | 578 | 252 | 2 | 1 |

②応募方法

応募に必要な以下の書類を郵送またはメールで下記に送って下さい。選考は面接で行います。必要書類の一部は下記ページよりダウンロードして下さい。

三重大学整形外科専門研修および病院見学ガイダンス

<http://www.medic.mie-u.ac.jp/seikeigeka/>

「必要書類」

- 1) 専門研修プログラム申込書（兼履歴書）
（様式は本院HPよりダウンロード）
- 2) 医師免許証の写し
- 3) 卒業証明書及び成績証明書
- 4) 初期臨床研修中の業績リスト及び初期臨床研修で学んだ内容
（様式は本院HPよりダウンロード）
- 5) 初期臨床研修修了書の写しまたは修了見込み証明書

募集期間

7月末～9月30日

問い合わせ先

〒514-8507 三重県津市江戸橋 2-174

三重大学 大学院医学系研究科 整形外科

担当：長谷川正裕（研修プログラム統括責任者）

Tel: 059-231-5022 Fax: 059-231-5211

seikei@clin.medic.mie-u.ac.jp

病院見学の申し込みについて

三重大学医学部附属病院は随時、病院見学を受け付けております。